

提出日： 2022 年 10 月 5 日

## 研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	縄田 雄二

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。				
	<table border="1"><tbody><tr><td>1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日</td><td rowspan="4">3</td></tr><tr><td>2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日</td></tr><tr><td>3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日</td></tr><tr><td>4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日</td></tr></tbody></table>	1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日	3	2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日	3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日
1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日	3				
2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日					
3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日					
4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日					
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。				
	<p>時間が無く長年閲覧しに行けなかった宮内庁書陵部所蔵の文書を閲覧、日本の学問体系や大学受験に深く影響を及ぼしている文・理の区別が日本に導入された根源のありさまを明らかにした(論文「文学とは何か：国際的・歴史的観点からの考察」岩波書店『思想』1178号)。文学自体ではなく文学を支える制度(文学部)に着目し、それを広い学問体系のなかに置き、世界史的視点から分析した研究でもある。</p> <p>6月にはベルリン文学館(Literarisches Colloquium Berlin)における国際翻訳者会議“JUNIVERS”招待され参加した。ドイツ語で書く詩人たちを、さまざまな言語への翻訳者が囲み議論するなど、豊富なプログラムでもあった。ベルリン自由大学の Cluster of Excellence (卓越研究群) “Temporal Communities : Doing Literature in a Global Perspective”は、ヨーロッパでも屈指の文学研究プロジェクトではあるが、そのメンバーたちと懇談、研究者会合(残念ながら急遽オンラインに変更されたが)では、「文化テクノロジー史としての世界文学史」という私の立場を主張した。学期の期間は日独でかなり重なるが、閑散としている学期休みに渡独すると学期中とでは得られるものの質・量が違う。学期中に滞独できたのは有難かった。</p>				
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。 上述の通り、論文「文学とは何か」を公にした。活動報告欄に記載した JUNIVERS においては、韻という、諸言語に古来備わる言語技術を、ドイツ語詩の日本語訳においていかに具現するかにつき、多くのインスピレーションを得、Lyrikline というウェブサイトで実験的な翻訳をひとつ、成果として発表した。ドイツ語韻文の今後の翻訳にも生かしたい。				
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。 他者(研究者、文化団体、出版社)が関わる計画、独創性を自負し得る研究プロジェクトにつき、ここに具体的に記すわけにはいかないが、このたび得たものを将来に生かす決意を述べておく。				